

かるがも



第18号

発行所 千葉県こども病院
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1
TEL 043-292-2111
FAX 043-292-3815
<http://www.kodomo.umin.jp/>

新年度を迎えて



病院長 伊達裕昭



今冬は例年になく暖かい冬でした。そのためかインフルエンザの流行時期も遅れて3月にずれ込んでいましたが、4月も中旬になりやっとその発生も収束してきたようです。4月に入ってから暖かだった冬の反動でもあるかのように、この時期としては寒く不順な天候が続き、本来の春ののどかな陽気を楽しむというわけにはいきませんでした。皆様はどのような春をお迎えでしょうか。

こども病院では4月2日に、早咲きで満開に近い桜の中を今年も多くの新入職員が加わり、昭和63年秋の開院以来20年目の年となる今年度のスタートをきりました。

今年は事務局に大きな異動があり、小沢前事務局長が医療技術大学校長に、また大内前事務局次長が野田看護学校長にと、幹部の二人が奇しくも医療関連の教育現場に転進いたしました。当病院での経験を生かして次代を担う医療従事者の育成に尽力されることと思います。看護局では亀田副部長が県がんセンターに異動し、替わって県循環器病センターから小堀副部長を迎えました。また医療局診療部では国立成育医療センターに異動した遠山悟史に替わり、麻酔科医長として神奈川県こども医療センターから原真理子を迎えています。手術室の体制および運営にこれまでとは若干の変更を生じることから、しばらくの間手術の実施件数を制限したり外科系診療科の入院予定が延びるなど、診療面で皆様にはご迷惑をおかけすることがあるかも知れません。どうかご了承下さいますようお願い申し上げます。

病院内の組織体制にもいささかの改編を加え、今年度からは地域医療連携室に専任の看護師

として上加世田師長を配しました。地域の病院・診療所ほか関係諸機関との連携を進める中で、今後は小児の在宅医療への対応や医療相談業務も充実させていきたいと考えています。新たに設けた医療安全推進室には青墳主任医長を専任室長として充て、これまで活動してきた安全対策・感染対策の各委員会を統括する部門として位置づけることで、さらに安全で安心いただける医療の提供体制を目指します。

日本の各地で産科・小児科勤務医の減少問題が噴出して、「医療崩壊」とまでささやかれる昨今の我が国の医療状況については年頭の本紙でご紹介申し上げました。そんな状況の中、卒後2年間の初期臨床研修期間を終えてこれから小児科専門医を目指す3名の若い医師が、4月からレジデントとして当院で働き始めています。万全の教育指導体制を敷いてはいますが、彼らを一人前の小児科医に育てる過程は皆様の協力なしにはできないことと考えています。ご理解とご協力をお願いいたします。

今年度はまた私達がこども病院のIT元年と位置づける年でもあります。県病院局の協力を得て、長年の懸案であったオーダリングシステム（医師の指示や予約内容を院内の多部門が同時に共有して認識するためのコンピューターシステム）の導入を12月から開始し、その先の平成20年度には電子カルテ（カルテへの記録・画像・検査所見を含めて電子情報として患者さまごとに一元的にデータ管理を行うシステム）として運用ができるよう、院内の各部署はすでに動き始めています。特に外来部門においては秋以降、診療の形態・予約の取り方・呼び出しの表示などいろいろな面でこれまでの当院の診療とは変わる部分が発生し、多少の混乱が生じる恐れもありますが、IT化がもたらす利点は当院を利用される患者さまに直接に間接に反映し、必ずや医療そのものの改善へと繋がっていくものと信じています。

新たな職員を迎えたこの4月からの新年度も、引き続き皆様に信頼をいただける病院をめざして各部署は種々の取り組みや改善の歩みを進めています。平成19年度の始まりにあたり、当院に対する皆様方の一層のご協力とご支援をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

平成19年4月20日

